

アル・アクサ洪水第751日目：ファタハとハマスがカイロで会談、ヴァンスはイスラエルの併合計画を「愚かな」と非難

Palestine Chronicle, 2025年10月24日、脇浜義明訳



占領下のヨルダン川西岸地区で、イスラエル軍がパレスチナ人農民が自らの土地に到達するのを阻止している。(Photo: via QNN)

主要事項

*J.D. ヴァンス米副大統領はイスラエルの西岸地区併合案を「愚かな政治的奇行」として拒否し、米国がイスラエルの一方的行為に反対し、ガザ停戦に責任を負うことを再確認した。

*パレスチナ各派がカイロに集まって、ガザの戦後について協議した。提案されている国際的統治に反対し、抵抗勢力が武装放棄するかどうかはパレスチナの内部問題で、交渉事項ではないことを確認した。

*ガザのパレスチナ保健省によれば、2023年10月7日からのイスラエル軍攻撃の犠牲者数は、死者68,234人、負傷者170,373人で、その多くは女性と子どもである。

最新情報

10月25日 12:23am

*パレスチナ・クロニクル：カイロで会談したパレスチナ各派は、ガザ統治を独立したテクノクラート委員会に委ねることで合意し、エジプトのガザ戦後構想を支持し、パレスチナ人民の唯一の代表としてのPLOの再活性化を呼びかけた。

10月24日 11:55pm

*パレスチナ・クロニクル：今日、イスラエル閣議が開かれ、ガザ回廊でイスラエル軍支配地域への境界となる、いわゆる「イエローライン」に近づくパレスチナ人への対応を協議した。イスラエル・メディアの報道によれば、「子どもやロバでも射殺しろ」と言った閣僚もいたという。

10月24日 11:09 pm

*アル・ジャジーラ：アル・ジャジーラ特派員は、イスラエル占領軍が西岸地区ナブルス市の東部を襲撃したと報じた。

*パレスチナ・メディア：今夜、イスラエル軍がベツレヘムの南東にある町トゥクウに侵入し、それに抵抗するパレスチナ人との間で衝突が起きた。

10月24日 11:06 pm

*パレスチナ・メディア：マルコ・ルビオ国務長官は「ハマスはガザ統治できない」、UNRWA を「ハマスの「下部機関」と呼んで、UNRWA はガザで「何の役割も果たせない」と言った。[ロバート・インラケシュの小論](#)を読みたい。

10月24日 10:09 pm

*パレスチナ・メディア：ガザ市民防衛団は、住民のニーズを満たせない少数の援助物資トラックが到着した以外に、現場には何の変化もないと報告した。市民防衛団は、ガザでは依然として人道的破局が続いており、団員は途方もない破壊の中で何の資源もない状態で救援活動を行っていると述べた。防衛団は、国際社会に対し、早急に復興活動を開始し、瓦礫撤去のための重機を搬入することを求めた。救援隊や医療チームが安全に目標地に到達できる安全な人道回廊の設置を求めた。

*チャンネル12：チャンネル12の世論調査によると、イスラエル人の52%がネタニヤフの次期選挙への立候補に反対で、支持を表明したのは41%であった。

10月24日 9:03 pm

*ニューヨークタイムズ：米国とイスラエルの関係筋の話では、米軍はガザ回廊上空で無人機の監視飛行を始めた。これは現場を監視し、停戦条件が遵守されているかどうかを確認するためである。

*チャンネル12：イスラエルの治安筋は、イスラエルは「イエローライン」地区におけるすべての軍事行動を事前に米国と相談して調整することが要求されていると語った。

*イスラエル・メディア：イスラエル治安筋は国営放送「カン」に、赤十字はこの先数時間は遺体受け取りの連絡を受けていないと語った。

*パレスチナ・メディア：アル・アクサ殉教者病院の報告では、ガザ回廊中部のデイル・アル・バラフ市東部へのイスラエル軍の砲撃で、パレスチナ人2人が死亡した。

10月24日 7:37 pm

*パレスチナ・クロニクル：イスラエルは生存権を主張している。しかし、国家は権利として存在するものではない。それに、過去80年間イスラエルがパレスチナ人が存在できないように全力を傾けてきたことを思えば、イスラエルは「存在権主張」なんて言える立場ではない。[ジェレミー・ソルトの小論](#)を読みたい。

10月24日 7:23 pm

*パレスチナ・クロニクル：無法国家として孤立を深めるイスラエルの入植者植民地政権はまたもや重大な国際法違反を指摘された。[イクバル・ジャサットの小論](#)を読みたい¹。

10月24日 7:21 pm

*アル・ジャジーラ：パレスチナ政治関係筋はアル・ジャジーラに対し、パレスチナ各派のカイロ会議を終え、1か月以内に将来のガザ統治についての協議を再開すると述べた。関係筋によると、エジプトが戦後ガザ統治構想を提示しており、それには戦争中もガザに留まっていた人物によって構成されるテクノクラート委員会を通じてガザ行政画行われるとある。パレスチナ各派は、テクノクラート委員会に推薦されている名簿を承認し、エジプト政府がそれを米政府とイスラエル政府に提案して折衝する。

訳注1：遅ればせながら、国際司法裁判所は、イスラエルは国連機関や国際団体の人道支援物資のガザ搬入を認めるべきだ、占領国イスラエルにはガザ住民の生存のためのニーズを満たす責任があるという判決を下した。

*アル・ジャジーラ：ガザ市報道官は、「これまでガザ回廊で行われてきたことは暫定的緊急措置に過ぎない」と述べた。彼は、すべてのクロッシングの開放を求め、緊急支援物資のリスト作成と、それらのガザ搬入日程の作成が必要だと言った。

*ユニセフ：国連児童基金（ユニセフ）は、ガザの上下水道と衛生状況が非常に劣悪だと述べ、世帯の水と衛生に関する基本的ニーズが満たされていないと付言した。

*アムネスティ・インターナショナル：アムネスティ・インターナショナルは今年西岸地区で入植者による暴力が860件以上あったと記録した。アムネスティ・インターナショナルは、世界の指導者たちはイスラエルの占領を終わらせ、西岸地区のアパルトヘイト体制を終わらせる法的義務があると、言った。

10月24日 5:59 pm

*パレスチナ・クロニクル：WHOは、脆弱な停戦合意はあるが、ガザの危機は「終息には程遠く、必要なことは膨大にある」と警告した。

10月24日 5:52 pm

*パレスチナ・クロニクル：今日のイスラエル・メディアの報道によれば、イスラエルは今後あるかもしれない人質遺体の引き渡しに備えている。

10月24日 5:49 pm

*パレスチナ・クロニクル：トルコのイスタンブール大学で4日間にわたるセッションが開催され、法律専門家、生存者、学者らが、イスラエルのガザ・ジェノサイドや組織的国際法違反行為の具体的証拠を検証して論じ合った。

10月24日 5:47 pm

*パレスチナ・メディア：パレスチナ各派のカイロ会議の共同声明は、ガザ停戦実施の継続への支持を表明した。彼らはガザ統治をガザ回廊の住民から構成される独立的暫定委員会に委ねることに合意し、停戦を監視する国際部隊を国連が承認することを求めた。

*UNRWA：イスラエルから活動を抑制されているUNRWAは、占領下のパレスチナ全体で緊急的人道支援ニーズを満たすうえでUNRWAの存在は不可欠だと述べ、国際司法裁判所が「ガザ住民救援においてUNRWAに代わる組織はないと判決の中で述べた」ことを強調した。

*国連：国連上級女性職員はアル・ジャジーラに対し、ガザの女性らは生活必需品を必死になって必要としているが、支援物資は前よりも増加したが、必要量に達していないと述べた。

*ハマス声明：ハマスは停戦合意遵守を改めて表明し、捕虜解放と数人の遺体引き渡しと残る部分の完了に向けて取り組み、第一段階を完了したと言った。ハマスは、人道支援問題をイスラエルが「政治的脅迫の道具」として利用することを警告し、封鎖解除や援助物資搬入の即時許可など、イスラエルに義務を履行させるよう圧力をかけることを求めた。

10月24日 5:40 pm

*パレスチナ・クロニクル：イスラエル・メディアの報道によれば、合意の一環として次なる人質遺体の引き渡しがあるかもしれないので、イスラエルはそれに備えている。

10月24日 2:49 pm

*マルコ・ルビオ国務長官：マルコ・ルビオ国務長官はテルアビブの民軍調整センターを訪問し、トランプ大統領の和平案に代わる「代替案はない」と述べ、米政府のその実施へのコミットを改めて表明した。彼は、「ガザ合意の実施には課題もあるが、楽観視できる理由もある。イスラエルとハマスは停戦合意を守らなければならない。我々は国際的慈善団体と協力してガザへの援助物資配布を調整している。我々はガザ安定化のための国際治安部隊結成の条件づくりをしている。もしハマスが武装解除を拒否したら、停戦違反になる。イスラエルの西岸地区併合は和平プロセスを脅かすもので、おそらくそうしないであろう。UNRWAはガザで役割を担えない。ハマスの下請け機関となっているからだ」と語った。

10月24日 2:47 pm

*ガザ市民防衛団：人道危機の状況に変化はなく、地区に入るトラックでさえ最低限の基本的ニーズを満たせていない。我々は復興を開始し破壊によって残された膨大な瓦礫を除去するための緊急措置を求める。

＊ガザ市：我々は停戦開始後何らの建築資材も重機も必要なスペアパーツも受け取っていない。我々は国際機関や人道支援団体に、人道危機を軽減するために、物資の緊急提供をお願いしている。

＊ハアレツ：イスラエル軍将校は、ガザへのトルコ軍派兵に懸念を表明し、ガザの平和維持軍に入る部隊は「関係者全部に認められる国の軍でなければならない」と言った。

＊WHO：WHOはすべてのガザへのクロッシングの開放を求めた。多くの医療施設が機能停止状態にあるか、近づけない状態にあると、WHOは警告した。さらに、子ども4,000人を含む15,000人の患者がガザの外への緊急搬送を必要としていると述べた。

＊ハアレツ：イスラエル軍は数か月以内に予備役兵動員を解除し、今後の召集を中止する予定である。イスラエル高官は、「イスラエルは2人の兵士の遺体を今家族に引き渡す準備をしている」と言った。

＊トルコ大統領府：エルドアン大統領はイスラエルをガザ停戦合意違反で非難し、「ハマスの方は合意を遵守している」と言った。彼は、ガザ復興への準備が進められていると述べた。彼はイスラエルへの外交的圧力強化を求めた。ガザの安定化部隊へのトルコ軍派遣については「まだ決定していない」と言った。

＊パレスチナ・メディア：イスラエルから返還されたパレスチナ人囚人の遺体は、拷問による損傷がひどいために身元確認ができず、そのまま埋葬された。ガザ当局は、使えるツールがない中、衣服や身長や体形などの「目に見える特徴を手掛かりに遺体の身元確認に努めた。

10月24日 10:29am

＊ニュースのまとめ

- ・負傷した子どもの死亡；西岸地区ナブルスのアスカル難民キャンプの子どもが、以前受けたイスラエル兵の発砲による負傷が原因で死亡した。
- ・入植者の放火；ラマッラー東部のデイル・ディブワンの町のアッテル地区を襲撃した入植者が、車両に放火した。
- ・イスラエル軍、侵攻と逮捕；イスラエル軍はトゥバの北の町アル・アカーバを襲撃した。イスラエル軍は、トゥルカレム市のある釈放されたばかりの元囚人マレク・アル・ジャラドの自宅を襲い、彼を逮捕した。イスラエル軍はナブルスのテル村を襲撃、若い男性1人を逮捕した。イスラエル軍はヘブロン南部地区に侵攻し、若い男性2人を逮捕した。
- ・入植者の攻撃；地元からの情報によると、入植者が、ヘブロン南部のマサフェル・ヤッタのアットゥバ村の住宅を攻撃した。
- ・オリーブ収穫への攻撃；西岸地区のUNRWA事務所の所長は、パレスチナ人のオリーブ畑がイスラエル軍の攻撃標的になっていると指摘し、入植者のオリーブ畑襲撃と重なって、今シーズンのオリーブ収穫量が前年比で75%も減少した。
- ・住宅破壊；イスラエル軍はガザ市東部で住宅破壊作戦を行った。
- ・ハーン・ユーニスで発砲；ハーン・ユーニス南東でイスラエル軍車両が銃撃した。
- ・警報誤作動；ガザ回廊周辺地で警報が鳴ったが、イスラエル軍は誤作動が原因だと発表した。
- ・避難民の状況；救援活動家によれば、避難民のキャンプ村では水、食料、医薬品が欠乏しており、ほとんどの世帯は日々の食事をごくわずかの援助物資に頼っており、援助物資が届かないときはその日1日食事なしで過ごしている。
- ・米国、イスラエルに合意違反を警告；治安機関の高官はハアレツ紙に対し、米国は「合意を崩す恐れがあるイスラエルの不意打ち攻撃を容認しない」と伝えており、空爆を含むすべての例外的攻撃については、事前に米国に通知するように求めていると語った。
- ・米高官、イスラエルを「制御不可」と見做す；ポリティコの報道によると、米政府高官はイスラエルが「制御不可」になっていると、アラブの同盟国に伝えた。これは、イスラエルの度重なるパレスチナ攻撃とクネセトの西岸地区併合予備投票をめぐり、米政府内で不満が高まっていることの反映である。
- ・イスラエル、遺体受け入れ準備；カンの報道では、停戦合意の一環として今週末に人質遺体を受け入れる準備をしている。
- ・米世論、パレスチナ国家承認を支持；ロイター・イブソス共同の世論調査によると、米国人の59%が米国はパレスチナ国を承認せよと要求しており、民主党支持者では80%、共和党支持者では41%がパレスチナ国承認を支持している。

・10・7調査；マアリブ紙の世論調査によると、イスラエル人の64%が2023年10月7日事件に関する公式調査委員会の設置を支持している。

10月24日 12:49am

*イエディオト・アハロト：ネタニヤフ政府は米政府に対し、パレスチナ国を承認した国をガザ安定化部隊に加えることに反対すると伝えた。

*AP通信：イスラエル議会が西岸地区にイスラエル主権を確立するとうクネセトが仮決定したことに対し、トランプ大統領は、イスラエルは「順調に事を進めており、西岸地区に関して何もしないだろう」と言った。

*パレスチナ・メディア：情報筋によると、イスラエル軍は西岸地区トゥルカレム市にあるヌール・シャムス難民キャンプの上空に照明弾を発射した。

*ロイター通信：入手文書によると、米国は「ガザ人道財団」に代わるガザ支援計画を検討している。

10月23日 9:33pm

*パレスチナ・クロニクル：国連人口基金（UNFPA）の幹部によれば、ガザの新生児の約70%が早産の低出生体重児、妊娠の3分の1が危険を伴うと見られている。

10月23日 9:28pm

*パレスチナ・クロニクル：今日、イスラエルの極右のベザレル・スモトリッチ大臣は、パレスチナ国承認をしているサウジアラビアとの国交正常化を拒否し、サウジアラビアの名誉を傷つける発言をして、怒りを引き起こした。

10月23日 9:15pm

*イスラエル・メディア：イスラエル軍のエヤル・ザミール参謀総長はJ.D. ヴァンス米副大統領に、トランプ大統領計画の第二段階への移行は、「イスラエル人人質遺体の全員返還の前には不可能」と言った。また、軍部情報筋はヴァンス米副大統領に、ハマスは停戦期間を利用して勢力回復を図っていると言った。

*CENTCOM: 米中央軍（CENTCOM）はエルサレム・ポスト紙に対し、イスラエルに新設した調整センターは「ガザが持続的安定へ向かううえで極めて重要」だと述べた。さらに、多くの国がガザ安定化に向けた取り組みへの参加を表明していると述べ、「ガザ調整センターは軍事同盟よりはるか広範なもの」と言い、「2年間の紛争からの脱却は容易ではない」と強調した。

*イスラエル・メディア：ネタニヤフ首相はヴァンス米副大統領に対し、西岸地区併合に関するクネセトの票決は「予備的審議にすぎず、何の結果をも生まないだろう」と言った。しかし、ヴァンスは、「私がイスラエルにいる間に投票すべきではなかった」と反論した。

10月23日 8:23p

*パレスチナ・クロニクル：トランプ大統領は、ネタニヤフ首相のガザ・ジェノサイドを止めたのは私だと言った。私が止めていなければ「何年も続いていたかもしれない」と述べた。

10月23日 8:19pm

*アル・ジャジーラ：情報筋によると、カイロでハマス代表团（ハリール・アル＝ハイヤ率いる）とファタハ代表团（フセイン・アル＝シェイクとマジェド・ファラージ率いる）との会談が行われた。協議ではパレスチナ政治情勢とガザ地区戦後体制の調整が焦点となったとされる。

10月23日 4:12pm

*パレスチナ・クロニクル：ヴァンス副大統領は、イスラエルの西岸地区併合案を「愚かな政治的戦略」と非難し、米国はイスラエルの一方的行動に反対で、改めてガザ停戦へのコミットを表明した。